

会議録

会議の名称	令和８年度 第２回西東京市地域自立支援協議会 計画策定部会
開催日時	令和８年７月15日（水曜日）午後２時00分から午後３時30分まで
開催場所	イングビル３階 第３・４会議室
出席者	伊藤委員、小矢野委員、鈴木委員、関口委員、平委員、橋爪委員、長谷川委員、久松委員、山口委員（50音順）
議題	１ 計画策定に向けた方向性について ２ 障害福祉サービス等の見込み量について ３ 計画の構成について ４ その他
会議資料の名称	資料１ 第８期西東京市障害福祉計画・第４期西東京市障害児福祉計画における検討の方向性について 資料２ 障害福祉サービス等の見込み量の推計方法について 資料３ 第８期西東京市障害福祉計画・第４期西東京市障害児福祉計画構成案について
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

会議内容

傍聴３名

１ 議題

議題１ 計画策定に向けた方向性について
事務局より資料１を説明。

○委員

ここに書かれている方向性や課題が、具体的に量的・質的なものとして計画に反映されると思うが、何点か気になる点がある。よく使われる表現として「何とかと連携して」というフレーズが頻繁に出てくると思うが、例えば２ページの「本人および介護者の高齢化に関すること」において、「障害福祉と高齢福祉部局との連携の強化を図ること」といった記述がある。ただし、この問題は今に始まったことではなく、以前から指摘されている課題である。そのため、具体的にどのような形で連携を進めていくのかが示されない場合、この表現だけでは言葉だけで終わってしまう可能性があると思う。また、防災部門との連携に関する記述についても、具体的な連携内容が示されていないこともあり、具体例を示すことで、さらに良い内容に仕上がると思う。

○部会長

実効性という点で、具体的に文言に盛り込まれていくことは非常に貴重なことだと思うので、事務局で検討していただきたい。

○委員

西東京市としてやらなければいけないことは限られていると思うが、相談支援体制の充実が西東京市だけではなく、どこでも言われている。事業所の人手不足、事

業を充実したいと思っても、費用が伴うと思うが、1つのアイデアとして、子どもの事業では、相談事業だと、スパンに合わせて報酬単価が入るということを聞いている。成人になると、介護保険に移行するまではずっと長いスパンでやらないといけないが、報酬は変わらないといったところで、例えば、卒後や高齢になった節目で様々な確認やサービスの見直しなどを行うことで、報酬もそれに合わせて、加算などの工夫をすることで、事業所の事業展開につながり、充実すると思うが、そのような工夫を西東京市独自で行うことは可能なのか。そうすると、スムーズな移行にもつながってくると思う。その方が困らないところに連携できるような体制を作っていたきたい。

○委員

今回の議題が方向性ということで、説明いただいた内容はよく練られており、良いと思う。具体的には、資料1の2ページに記載されている、令和7年度から開始された就労選択支援について触れられている点や、身体障害者の方がアンケートで回答した、相談が欠ける中で家庭内に閉じこもってしまうところに対してアプローチされるような取り組みにも触れられている。ただし、先ほどの議論にもあったように、今後さらに具体性が求められると思う。

就労選択支援については、対象が非常に幅広いことから、就労継続支援B型の利用者などが就労選択支援事業においてどのような支援をされていくのか、具体的に記載していただきたい。また、災害時の対応については、私自身が後見人を務めた際の経験で、夜間や休日に倒れた際、近隣住民が私の住所を知らずに連絡が取れなかったため、結果的に民生委員の支援を受けることがあった。そういった幅広い連携は当然想定されていると思うが、パターンを分けて検討することで、この計画の内容がさらに充実したものになると思う。

○委員

災害時の対応だが、いつ来るか分からない災害に対して、いつまでに何をどこまでやるのか予定が立っていると良い。

○委員

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについても記載があり良いと思う。整理されていると思うが、今後の重要な課題であるため、もう少し具体的に、例えば協議会を設置していくなど、一歩進んだ内容で書いた方が分かりやすいのではないかと思う。精神障害のところでは、医療と福祉、介護と連動していると思われるため、その辺も明記すると良い。

○委員

供給体制の整備に関するところで、地域内のサービス供給が十分でないということがどの分野でも課題となっており、障害福祉サービス、障害児福祉サービスいずれも記載があり安心しているところだが、どれぐらい足りていないのか、次期計画でどれぐらい増やしていくのか、どれぐらい必要なのかというところが、具体性に欠けている。

○委員

成果指標のところで、目標値に達していないという言葉ですべての文章が終わっているが、そもそもの目標値が、どのように立てられた目標なのかというのが素朴な疑問である。そもそも、本人が希望してなくても、数をこなさなければいけないのか、その辺が気になった。目標値に達していないということのそもそもの原因は何なのか。同じことを繰り返していたら、また同じことになってしまうと感じたことと、家族支援的な内容はどこかに書いてあるのか。卒後のことで、就労の場の確保というのは本人のことだと思うが、保護者の就労が継続できないことが非常に大きな問題になっているということなどが、課題意識としてももう少し重要なのではないかと思う。

○副部長

具体性が必要かと思う。例えば、2 ページ目の情報の周知に関するところで、障害サービスの利用において、サービス提供や内容に関する情報が少ないとか、利用方法が分からないといったところが課題として挙げているが、実際にどういうことなのかという分析ができていないと、対応策がきちんとしたものが出てこないのではないか。分析をもう少しした方がいいのではないかと思う。また、サービス化されていない権利擁護や普及啓発で、中身が機能していなかったりするため、もう少し深掘りをして、計画にしていってほしいが、より良いものになるのではないか。

○委員

2 ページの情報提供・周知に関して、具体例として、卒業した保護者向けに必要な手続きが分かる冊子や高齢者向けに注意点をまとめた冊子を作成することが考えられる。現在提供されている障害者の手引きは情報量が膨大で、福祉サービスに関わる人々はなかなかないため、親の会でも努力しているものの、行政がこうした情報提供を行うことで、多くの人が助かるのではないかと感じる。

○委員

利用の枠はあるが利用の希望者がいないという表現があったと思うが、どうしてそういう状況が起きているのか。数字や客観的な表現だけではなく、これをよい計画に生かしていくためには、どうしてこういう事態が生じているのか、その根底にあるのは何なのかというところまで、掘り起こしていかないと、表面だけ作った計画ではもったいないと思う。そういうところまで考察をして作っていくということが大事だと思う。

○委員

私自身が関わっている障害者の方の範囲は限定的であり、この部会にも専門家の方が多くいるが、すべての分野を網羅できているわけではないと思う。そのため、計画策定において留意すべきこととして、取りこぼしがないことが重要である。障害福祉課で、委員が気づきにくい部分を含め、計画に盛り込んでいただきたい。また、資料1の2 ページ目の情報提供や周知に関するところで、ニーズのくみ取りを加えていただくと取りこぼしがなく、充実するものになると思うため検討していただきたい。

○部会長

先日、自立支援協議会に参加した。委員の方々からの意見の中で、過去の実績の分析、現状の分析等はしっかりしてほしいという意見があり、ここでも意見として出ていると思う。また、様々な障害種類があり、すべての方たちを代表して出ているわけではないため、とりわけ少数の方たちの取りこぼしがないようにということも、協議会からの意見として出ており、そこは丁寧に見ていかなければいけないところだと思う。また、情報の相互構成というところについて、どのような形でいけばいいのか、ここは本当に分析が必要。情報等が行き届いていないというところがニーズとしても出ているので、具体的にどのようなことが施策として取り組まれていくのかということも、検討していくべきところだと思う。協議会の内容と今の意見の内容が非常にリンクしているため、今回の計画策定の方向性として、部会で検討していけたら良いと思う。

○副部会長

本会と部会のお話が出てきているのは、すごく良いと思う。自立支援協議会自体の仕組みが機能しないと、いくら話しても仕方がないため、そこに関しては明確に出していくのが良いと思う。特に、部会のことについては、しっかり記載をしていった方がよい。部会は複数あるが、ここの管理を行政側にはしっかりしていただきたい。事業所が集まって、現状を共有したところで、行政側の仕切りが入っていないと、なかなか機能しないところがあると思う。そういう仕組みのところが触れられていて、もっと拡充していくと良い。

○部会長

2 ページ目の課題・方向性の下から 2 つ目のところで、これはほぼ多分ゼロだと思うが、このあたりは、回数も含めて、会議で取り上げる内容などを具体的に盛り込むだけでも、しっかりと取り組めるものではあると思う。他区の自立支援協議会に参加していたが、部会がかなり活発に動いており、西東京市の部会に関しては、数年前まで、本当に部会がほぼゼロという状況で少ないと思っていた。近年、拡充はしてきているが、そこでどのようなものを議論して、どのような形にしていくかが重要である。部会も、市で管理しながら、どのような形で活発にしていくのがいいのか、議論できると良い。

○委員

就労に関することで、実際に働いている障害者の当事者が経験を話したり、相談を受けたりする機会が増えたら良いと思う。

○部会長

今、就労では精神障害の障害者雇用が圧倒的なトレンドにはなっていると思うが、就労に関していかがか。

○委員

就労に関しては、精神障害の方はなかなか難しく、安定しているときには非常に安定して就労できるが、一方で、少し体調を崩すと、なかなか難しいところもあるので、就労支援センター一步を利用しながら、うまくやっていけたら良いと思って

いる。ピア活動が積極的に進められているが、働く場を広げる取り組みをさらに強化すれば、広がっていくと思う。また、計画策定にあたり、現在のニーズ、サービス量の見込みなどで予測をすると思うが、今、実際にサービスを使ってないから、必要ないといった単純な計算ではなく、きちんとした視点、方向性、どのようなものが良いのかといった視点も取り入れていただきたい。

○部会長

就労に関しては精神障害がトレンドになってきており、発達障害もそうだが、企業就労は難しい。障害福祉サービスもあまりフィットしないという状況で、居場所をどういう形で進めるのかというところもあるが、現状、障害者の分野では、医療・介護というところが、おそらく一番障害者雇用をしている産業種別となっている。ピア的なところも実際はあると思う。そういった側面も調べていくと、西東京市内の大きい企業があまりない中で、どのような形で就労促進するのか、また、就労まで行かない方たちをどのように対応するのかというところも含めて、就労ということをもっと広い意味合いで捉えていけると良いと思う。また、表面化していないところをどのようにするかというところで、一時期、発達障害では、なかなかサービスにかからない人たちが表面化して、注目されながら進んできていたところもあるが、今は境界性知能と言われている方たちもあり、知的障害ではないけれども、その人たちが何らかのエラー等々が発生して、また表面化してくるということもあると思われる。境界性知能の方たちは、明らかに推測値よりも多いはずなのに、出てこないところがあるので、そういったこと等も含めて検証していくということは、見込み量を出していく上でも大事だと思う。

○委員

推計値の話で、前回の部会で話した通り、世田谷区は就労継続支援B型や生活介護の事業所数、子どもがどのようなサービスを利用するかなどを鑑み、推計をしていると思われる。ある程度実態に基づいた具体的な数字を提示していただきたい。

○部会長

見込み量の推計方法はまた後ほどの議論だが、実態に応じた推計は本当に貴重な方法かと思うため、よろしくお願ひしたい。

○委員

部会長から、自立支援協議会の個別検討実施回数がほぼゼロに近い状況であるとお話があったが、なぜそのような状況か。普段見えない部分で多くの事例や課題があり、それらをどのように解決し、良い方向へ進めるべきかが問われている。これらは自立支援協議会や相談支援部会で取り組むべきものと考えているが、検討回数がゼロに近い状況は非常に問題があると思う。

○部会長

部会の開催回数の問題もあると思う。議論する内容は多岐にわたり、具体的に開催回数がある程度明確になっていないとなかなか難しい。また、障害児の方で話題になっていた重層的な支援体制は、トップダウン的なところがある程度明確になってないと、ボトムアップ的なところでは、どこかで詰まってしまう可能性もあると

思う。重層的支援体制ということであれば、そのフレームとその流れみたいなものの整理も計画に盛り込めたら良いと思う。

○副部会長

私自身、サービス管理責任者の養成研修に関わっており、様々な場所で、自立支援協議会は勉強のネタになっている。その際、自立支援協議会の主な役割について、いろんな事業所で起きている共通のネタを吸い上げて、これを地域の共通の課題として話し合う場所であるという話になっているが、本会の委員の方に、こういう問題が起きているため上げられないかと打診しても、今はそういう雰囲気ではないという話になる。現在、協議会自体が、課題を吸い上げて、協議する場になっていないと思う。次期計画の中でやることが重要で、協議会の中で、そういう機能をきちんと果たすということを記載すると、その内容が果たされるのではと思う。

○部会長

精神障害に関する普及啓発に関することなどで、ご意見があまり出てきてないと思うがいかがか。

○委員

西東京市の取り組みはあまりわからないが、西東京市では精神科の病床を持った医療機関は山田病院だけなので、東京都の事業を受けながら、様々取り組んでいる。例えば、市民への普及啓発事業としての講演会の開催、医療機関のガイドブック作成や、市内の他の総合病院に精神の方が入院されたときに、どう対応しているのか先生も医者も看護師もなかなかわからないということで、対応力向上研修などを開催している。ただ、これらの取組みは西東京市と連動はしていない。

○部会長

東京都等では既に始まっているところもあるということで、そこを計画として、どのように考えていくかというところだと思う。

○委員

障害児のところでよく、障害福祉サービスと障害児福祉サービスのどちらなのか、特に医療的ケアのある児童については、医療のサービスとも連動しており、どこのサービスでもうまく拾いきれないといったことがある。現在、ニーズに対応したサービスがないものもあるのではないかな。障害福祉サービス、障害児福祉サービスや医療のサービスが連動し、どのようにニーズを拾い上げていって、形にしていくなかが課題だと思う。

○部会長

おそらく、サービスができればニーズが管理されてくるのではないかなと思う。放課後等デイサービスがなかった頃は、そこまでニーズがなかったが、今では利用者数は圧倒的に増加している状況である。現場の肌感などで、現状のサービスはないものの、不足しているものを吸い上げることは大事なことだと思う。

議題2 障害福祉サービス等の見込み量について
事務局より資料2を説明。

○委員

丁寧に見込み量を算出しようとしていることは理解したが、例えば今ないサービスについての見込みであったり、資料1でも出てきた、利用できなかった方のニーズ、いわゆる潜在的なものに関するものが、アンケート結果だけでなく、相談支援事業所の相談内容であったり、そういったところも拾うとより良いと思う。それがおそらく最後の政策判断になってくると思うが、この政策判断については、もう少し具体的に、どのような形になったら政策判断をするのか。

○部会長

その政策判断の1つの根拠が、ここの議論になると良いと思う。個人的に聞いている話だと、就労継続支援B型で、利用者が高齢化していたり、報酬がこれ以上下がるようであれば撤退するという話を聞いている。西東京市内ではないが、他の地区の事業所の話で、撤退に関する相談などを聞いたりしている。放デイや就労継続支援B型というのは、人口の増減などにかかわらず、明確に右肩上がりトレンドが続くものであり、そうすると、国は報酬を締めてくると思うので、今充足しているのが急になくなってしまいうことも起こり得るのではないというのが、現場の声として聞くこともあったりする。そのあたりの事情を踏まえて検討しておく必要がある。西東京市内でそういった事業所がないことを願いつつ、そういった事情を含めて検討していかなければいけないと改めて感じている。

○委員

過去の数値を見て計算しても、実際のニーズに合っているかどうかという疑問はある。数字がぴったりであったとしても、例えば本人に合ったB型に行けるのか、そういうところまでは、この数字だけで、ちょうどいい数が出たというふうに喜べるものではないと思う。

○委員

算定の方法に関しては、これしかないと思う。統計を出すという意味では、最善かつ合理的な方法を取っていると思う。そこを修正していくなかで、政策的なところや法令などの社会的背景の変化について、なぜ修正したのかとかいうことを、読む方に分かりやすくご説明いただきたい。最善の方法を取っていても、乖離が大きい分野があるかと思う。その分析をし、説明もできると良いが、この文章量の制限もあるため、できないということもあるかとは思う。

○委員

移動支援のグループ支援が最近人気が出てきていて、抽選があつて、漏れてしまうということが結構あるようである。数字には、過去漏れた人までは反映されていないため、そういったところも考慮していただきたい。

○部会長

グループでの移動支援と単独のものというのは、移動支援の請求で数値としてわ

かるものなのか。

○事務局

事業者から上がってきた請求を管理しているため、数値は把握している。

○部会長

グループの利用が伸びているなどはわかるということか。

○事務局

現在資料を持ち合わせていないが、必要があれば、整理をしてお示しすることは可能。

○部会長

その比率が増えている、量が増えているとなれば、ニーズが高いということになると思う。その辺も今後議論する中で、資料をお示しいただけるとありがたい。

○委員

移動支援事業だが、これは自治体ごとに違っており、西東京市は非常によく頑張っていて、グループで車を使って移動支援も認めており、非常に画期的で、他市の方々からも進んでいると、お褒めの言葉をいただいている。そういうことも出していくと、行政が頑張っていることがわかると思う。

○部会長

頑張っているところがたくさんあり、本当にありがたいと思うところもたくさんあるので、ぜひアピールできるといいと思う。

議題3 計画の構成について
事務局より資料3を説明。

○委員

計画なので難しいかと思うが、これを見たときに、ライフステージを通じての支援がすごくわかりづらいつと感じた。ライフステージを通じてずっと支援できることを目指していたと思うので、その辺がどこかで、例えば資料編にでも入ってくると良いと思う。

○部会長

ライフステージを一貫してというのは大事なことだと思う。第6期の第2章2に今後3年間の重点推進項目というのがあるが、これは以前計画策定関わった際に、いわゆる重点項目みたいなものを取り上げて、割と目立つようにして、この時期はこれを目指するというのを明確にしたほうがよいと意見が出て、重点目標が掲げられたという経緯があったと思う。目立つところに打ち出すなども含めて、キャッチーなものにするのではないが、そういったものがどこかに盛り込まれてもいいのではと思う。

○委員

計画の構成について、やむを得ないところで変え難いところではあるが、市民が読む際には、第1章や第2章で計画策定にあたっての背景事情が説明されるため、計画に至るまで疲れてしまう可能性がある。ただし、これらは計画において重要な前提条件であり、章を仕分けることは難しい。例えば目次で第3章「計画の考え方」を太字にするなど、市民や利用者等がどこから読めばよいか分かりやすくする工夫が必要ではないかと思う。ただし、構成という意味では、順番の変更などは難しいため、あくまで参考として述べる。

○委員

今から入れるのは難しいかもしれないが、資料1でも、意見として出た災害対応について、項目立てで記載がない。今後、取り組んでいくのであれば、そこも入れた方が良いと思う。

○部会長

必要な情報がわかりにくい可能性がある。災害などどこかに含めてしまうとわかりにくい部分もあるため、読む方にわかりやすく、工夫する必要がある。

議題4 その他

○事務局

今回の会議日程については、令和8年8月19日の14時からを予定している。詳細については、決まり次第連絡をさせていただく。

閉会